

今年もよろしくお祈いします。

昨年の菅生での森林整備活動は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受けて、前半は中止し、9月から再開しました。幸い、樹木の伐倒は危険なため、それぞれが十分な距離をとっての作業となり、密は避けられる野外活動だと思っておりますが、今年も状況によっては、活動の見通しが立たない状況です。今年も、ボランティアで森にかかわる人々(杣人)がのびのびと活動できる1年であることを祈ります。

今年2月に予定されている菅生での「シイタケの駒打ち(植菌)体験」用のコナラは、この活動において毎年準備しています。伐採、玉切り、搬出すべてをボランティアで行っています。コロナ禍の活動なので、全員が集まったところで、検温などの体調チェックをしてから森に入りました。



↑ チェーンソーの準備
久々にチェーンソーに触れるメンバー達

← シイタケのホダ木を運び出してくれる力強い味方「運搬車」、無償で運搬車を持ち込んでくれるメンバーもいます(オペレーターは所有者ではありません)。道具を満載して山へ向かいます。

→ これまで、台風や大雪後の尾根道整備に親子で参加していた青年がチェーンソーに興味を持ち、練習を始めました。初めてのチェーンソー、腰が引けるかな？





↑ 背後からお父さんが見守っています。まだちょっと腰が引けてるかな？



↑ 上達してきました。チェーンソーを腰で構えています。



↑ 切れなくなったチェーンソーは、自分で研ぎます。



← ↓ ベテランのオジサンたちは、チェーンソーを体に近づけて、体全体でコントロールできるように扱っています。青年よ、がんばれ！



← シイタケのホダ木の長さに調整して運搬車に積み込み、搬出をします。駒打ち体験の実施が懸念されるため、集めるシイタケのホダ木も、例年の半分の量に抑えました。新型コロナウイルス感染症の収束がみえず、今後の活動の行き先がみえない中で、2020年の活動を終わりました。

「森の若返りのために」

森の資源管理は難しく、なかなか正解にたどり着きませんが、SDGs(持続的な開発目標)を常に意識して伐採を進めるようにしています。これまで人類は、発展や経済活動のため、自然資源の略奪的な利用を繰り返し、多くの野生動植物の絶滅などを招きました。そのため、現在の自然環境問題を引き起こしている一因と言えます。この活動では、森の若返りを視野に入れ、持続的な森の姿を見据えて伐採を行っています。